

第8回日本大学全国高等学校土木設計競技

テーマ"人々が交流する駅・駅前広場"-これからの駅・駅前広場の提案-

総評

審査委員長 中村英夫

第8回を迎えた土木設計競技は、"人々が交流する駅・駅前広場"-これからの駅・駅前広場の提案-をテーマとして開催されました。全国の新型コロナ感染者数がピーク時には一日あたり25,000人に達した第5波の中、今回もオンラインによる開催となりました。全体で14作品の応募があり、1次審査を通過した8作品によって、9月19日に2次審査・公開プレゼンテーションを実施しました。

これらの8作品は、従来の駅・駅前広場といった固定概念にとらわれず、高校生ならではの自由な着想に基づいたものである一方、作品の提案を通じて何を実現したいのかが明確に示されていたことが共通する特徴でした。土木が果たす役割は、地域で営まれる生活や産業を便利で安全で潤いのあるものにする事です。持続可能な開発目標・SDGsの実現に際しても重要な役割が期待されます。この土木の本質を直感的に理解し、具体的な提案としての作品が寄せられたことに、これからの土木を担う若い世代の力と可能性を感じることができました。

最優秀賞に輝いた東京工業大学附属科学技術高等学校・東工大附属の作品は、建造後100余年を経過する土木構造物の鉄道高架下を利用した日比谷 OKUROJI 空間を対象に、地域の文化・駅アクセスと人流・多様な活動の共存を基軸とした空間利用の提案を行ったもので、地域の時空間の特徴を踏まえた細部まで考え抜かれた提案が高く評価されました。優秀賞の熊本県立熊本工業高等学校ベアブック2の作品は、熊本地震からの復興を進める益城町に、にぎわい・安全安心・みどりをコンセプトとした「道の駅」を提案するもので、防災拠点との一体的空間デザインまで含まれた意欲作でした。もう一つの優秀賞となった熊本県立小川工業高等学校不知火の作品は、駅と学校を一体化させることで通学時の安全確保や学校施設の有効利用など実現するといった、駅の利便性・拠点性と教育施設を結びつけるという柔軟な発想からの提案でした。このほか審査員特別賞として、西条市の祭り・だんじりをモチーフとした駅舎模型を製作した愛媛県立松山工業高等学校マツコウデラックスにはクリエイティブ賞、ドローンを用いた移動・輸送や各種サービスの提供という近未来の駅を提案した熊本県立小川工業高等学校 stream にはグッドアイデア賞、駅のユニバーサルデザインを自ら障害者に扮してチェックし改善提案を行った熊本県立熊本工業高等学校 COCORO2 にはグッドプレゼンテーション賞が、それぞれ授与されました。

参加いただいた高校生の皆さんにとって、コロナ感染拡大化での作品の製作やオンラインでのプレゼンテーションは万全の環境とはほど遠かったと思います。しかし、蓋を開けてみますと力作ぞろいの元気あふれる公開プレゼンテーションとなり、若さの持つパワーと可能性を感じ、元気をいただくことができました。

最後になりますが、参加して下さった高校生の皆さん、審査委員、運営スタッフの皆さんに心より御礼申し上げます。